

(様式 1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」
学校改善プラン(2年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	綾部市立綾部小学校							校長名	小嶋 康弘
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	児童数	498 名
学級数	3	3	3	3	3	2	3		
事業担当教員名	藤原 千恵								
① 中学校区で目指す子ども像	ブロック教育目標 自立と貢献 ～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成～ ブロック 目指す子ども像 ※下線部太字…重点 夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 綾中ブロックの子 ・夢をもち（将来を見据え、主体的に学び表現する子）【展望する力】 ・仲間とともに（豊かな心をもち、自他ともに大切にできる子）【つながる力】 ・未来を切り拓く（心身ともに健康で、実践力と行動力のある子）【挑戦する力】 ・綾中ブロックの子（誇りと郷土愛をもち、地域とかかわる子）【貢献する力】 ・ 認知能力、非認知能力がバランスよく身に付いている。 ・ 自分の能力と課題に応じた学習活動を計画・実行することのできる「自律的な学び」を実現することができる。 ・ 課題の解決に向けて、意欲的・協働的に取り組むことができる。 ・ 自分の思いや考えを素直に語り合うことができる。 ・ 下級生の手本として、自分自身の姿を振り返るとともに、上級生を手本として、より良い生き方について考え、実行できる。 ・ 粘り強く学習に取り組むことや誰かの役に立つ行動をとること等によって「自己肯定感」や「自己有用感」が高まっている。 ・ 自己理解に基づき、夢や希望、将来の生き方等を考え、それらの実現に向けて主体的に学習することができる。								
② 目指す子ども像	めざす学校像 『児童が今日も行きたい、学びたいと感じる「魅力ある学校」づくり』 ・ 自己理解ができる。 ・ 様々な活動に粘り強く取り組むことができる。 ・ 課題解決の場面で、理由や根拠を明らかにして自分の思いを語ることができる。 ・ 自分自身をよりよくするための自己調整の方略を知り、課題の解決に向けて主体的に取り組むことができる。 ・ 相手の気持ちや立場、状況等を豊かに想像し、人を大切にすることができる。 ・ 確かな学力を身に付けることができる。 ・ 学ぶことの楽しさや大切さを児童自身が実感することができる。								
③ 目指す子ども像に対する現状と課題	・ 学習活動や思考の過程などを振り返る機会はあるが、そのことが自己理解を深めることにはつながっていない。 ・ 学習面において、粘り強く活動に取り組む経験や、実感の捉えに差がある。 ・ （ペア・グループ活動も含め）自分の思いを伝え合うことができる児童は多いが、理由や根拠を明らかにして話すことについては課題が見られる。 ・ 与えられた課題に意欲的に取り組むことはできるが、主体的に課題に取り組む力は十分に育っていない。 ・ 相手の気持ちを考えて行動することが大切だと感じている児童は多いが、人を大切にしないと感じる言動も見られる。 ・ 国語科や算数科等の教科学習において、基礎・基本の力が身に付いていない児童がいる。 ・ 学ぶことの楽しさや大切さを児童自身が実感できる授業づくりについて、教職員で学び合う機会を十分に設定できていない。								

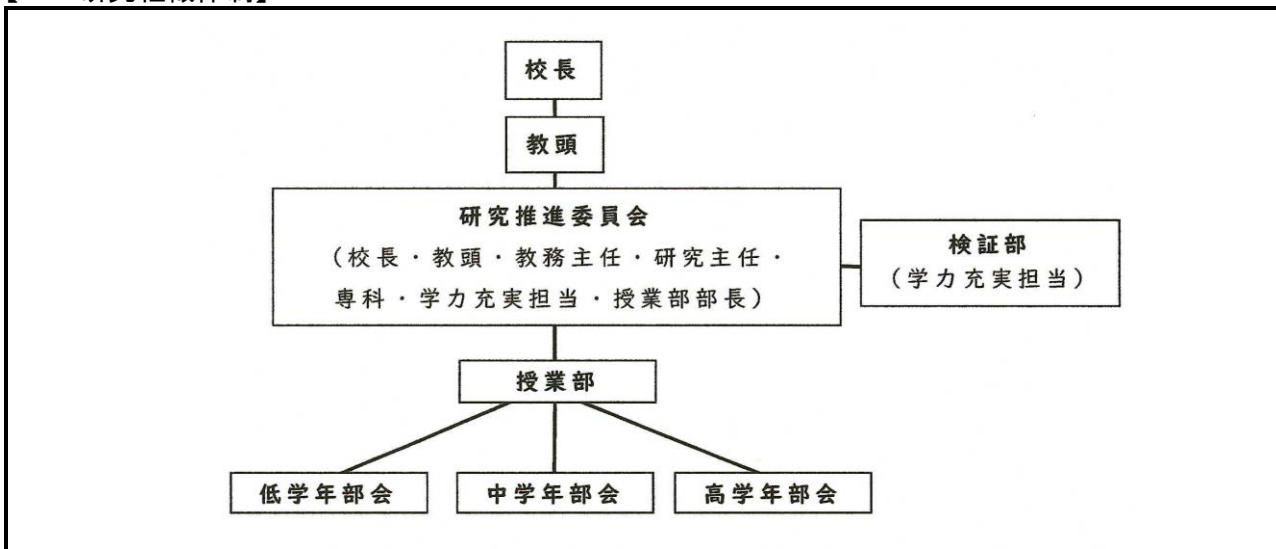
④ 目指す子ども像に達するための仮説	・ 学習や行事等の中で、互いのよさを認め合う活動を行うことで、学習活動や思考の過程をより具体的に振り返ることができ、自己理解が深まることにつながるのではないか。 ・ 学習や行事等の中で行う活動を自分事として捉えさせ、教師が具体的に評価をしていくことで、粘り強く課題に取り組む力が高まるのではないか。 ・ 問題解決への意欲を高め、児童が既習の知識及び技能等を関連付けながら根拠を基に筋道を立てて考え、伝え合うことで、論理的に考える力や表現する力が高まるのではないか。 ・ 授業や学級活動等の中で、相手意識を持った話し合いや対話を繰り返す中で、聞く力を育てることで、人を大切にしようとする気持ちを高めることにもつながるのではないか。 ・ 児童の学力の状況を把握し、個に応じた指導の工夫を行うことで、基礎・基本の力が身に付いていくのではないか。 ・ 算数科における「問題との出会い」と「振り返り」を大切にした授業づくりを行うことで、児童が主体的に学び、自己調整する力が高まるのではないか。また、そのことが、学ぶことの楽しさや大切さの実感につながるのではないか。
--------------------	--

令和6年5月1日現在

【1 研究主題】

Enjoy！算数 # 論理的に考え、伝える力の育成 # 自己調整力

【2 研究組織体制】



【3 具体的な取組内容】

・ 児童の学びの変容を捉えたり教師の授業改善を行っている過程を捉えたりするために継続的に各種調査の結果を分析する。 ・ 児童が主体的に学ぶ授業づくりについて考え合うために授業研究会を実施する。 ・ 確かな学びの授業公開で客観的な外部からの意見を聞く。 ・ 主体的に学ぶ力を高めるために、算数科を中心として、「問題との出会い」と「振り返り」を大切にした授業づくりを行う。 ・ 知識・技能を定着させ、思考過程を表現させるために書く活動を充実させる。
--

【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
4～6	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	
4～6	31	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。		

4～6	32	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。		
4～6	33	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。		

*** 5・6の分析の項目は削除しています。**

【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

個に応じた具体的な指導・支援方法

- ・ 様々なデータ（学びのパスポート・算数アンケート・評価テストの到達点）を活用し、個の児童の学力と自己調整に着目した実態把握を行う。
- ・ 担任外を中心に学習をサポートできる場を設定し、どの児童も課題を最後までやり切ることができるようにする。

集団としての具体的な指導・支援方法

- ・ 算数科を中心として授業改善を行い、児童が主体的に学ぶ力を高める。
- ・ メタ認知が働く課題設定を工夫することで、自己を調整しながら学ぶ力を育てる。
- ・ 単元のゴールの姿を児童と共通確認し、見通しを持ちながら学習を進めることができるようにする。
- ・ 振り返りの場面では、振り返りの視点や目的を具体的に伝え、必要感を持って取り組ませることで、身に付けた力や成長を児童自身が自覚できるようにする。
- ・ 様々な場面で書く活動を充実させ、書くことで問題解決できた楽しさや自分の考えが伝えられた喜びを実感することができるようにする。

【8 仮説の修正】

- ・ 自己調整をより高めるためには、自己理解との一体的な育成が必要なのではないか。

【9 具体的な取組内容の修正】

- ・ 授業の中で、学習方法を選択できる場面を意図的に設定する。

【10 児童の変容（普段の様子から）】

個に応じた具体的な指導・支援方法

【様々なデータ（学びのパスポート・算数アンケート・評価テストの到達点）を活用し、個の児童の学力と自己調整に着目した実態把握を行う】

- ・ 学びのパスポートや1、2学期に実施した算数アンケートの結果、評価テストの到達点に対する通過率の設定を通して、個の児童の学力と自己調整に着目した実態把握ができた。そして、実態を把握した上で、導入の工夫や必要な手立てについて検討することができた。導入を工夫することで学力が低い児童も課題を自分事と捉え、主体的に学ぶ姿が見られた。しかし、学力向上につながったとは言えず、更なる手立てが必要だと考えられる。

【授業の中で、学習方法を選択できる場面を設定する。】

- ・ 算数科を中心に「図を使ってまとめる」「言葉でまとめる」「ICTを使ってまとめる」など、学習方法を選択できる場面を設定することで、自分に合った方法を児童自身が自覚すること（自己理解）や課題に粘り強く取り組む姿勢につながった。

【担任外を中心に学習をサポートできる場を設定し、どの児童も課題を最後までやり切ることができるようにする。】

- ・ 児童自身が自ら学ぶ場に来ることを選択し、担任外の教員の支援を受けながら課題をやり切る姿が見られた。その際、学習をやり切ろうとする過程を認めたり、自力で課題解決できたことを具体的に褒めたりすることで、「できた」「分かった」と実感できる児童が増えた。

集団としての具体的な指導・支援方法

【算数科を中心とした授業改善を行い、児童が主体的に学ぶ力を高める】

【メタ認知が働く課題設定を工夫することで、自己を調整しながら学ぶ力を高める】

- ・ 課題を自分事として捉えることができる場面（課題との出会い）の工夫を行うことで、児童

が主体的に学び、自らの学びを調整する力が高まる姿が見られた。

- ・ 授業研では、学びのパスポートを活用し、学力の層を4つに分類して、それぞれの層に焦点を充てた授業参観を行い、子どもたちの実態に応じた工夫や発問、支援について学び合うことができた。学んだことについては、「My Action!」（明日以降の授業に生かしたいこと・公開授業・事後研究会で学んだことを記入するもの）に、互いの実践から学んだことを自分たちの授業にどのように生かしていきたいかを具体的に記入した。また、外部講師を招聘し提案授業をしていただき、児童の前のめりな姿を引き出す授業づくりについて学ぶ機会を設けた。様々な取組を通して、教師自身が常に授業改善を目指すことで、生き生きとした表情で粘り強く課題に取り組む続ける児童の姿が見られる場面が増えた。

【振り返りの場面では、振り返りの視点や目的を具体的に伝え、必要感を持って取り組ませることで、身に付けた力や成長を児童自身が自覚できるようにする】

- ・ 児童が授業のどのような場面でどんな自己調整力を働かせているのかを検証するため、振り返りシートの中に、「自己調整に関わる振り返り」の欄を作成し、子どもたちと共有しながら授業を進めた。また、各学年で振り返りの視点を作成し、振り返りの視点を意識した教師の声かけを行った。児童の変容にかかわる部分については、今後、さらに分析・検討していかなければいけないが、2学期の算数アンケートでは、「学んだことや気付いたことを振り返りに書いている」という項目に肯定的に回答している児童が増え、振り返りを書くことを習慣化させることができてきている。また、教師側の視点としては、児童が授業の中で目標を達成するために必要な自己調整を効果的に働かせていたかどうかを見取るものとして振り返りを有効活用することができた。

【様々な場面で書く活動を充実させ、書くことで問題解決できた楽しさや自分の考えが伝えられた喜びを実感することができるようにする】

- ・ 夏季校内研（出前講座・講演会）で学んだことを生かし、発達段階に応じて、書く力をどのように育成するかについて具体的に考え、実践することができた。また、教師が具体的に評価をすることで、自分に身に付いた力を児童自身が自覚することができた。
- ・ 2学期に実施した自己調整に関わるアンケートでは、「30 他の人の意見も参考にしながら自分で考えていく方だ」「33 1つの解決方法だけでなく、他の方法、より簡単にできる方法をいつも考えている」という項目について、より肯定的に回答している児童が増えた。

【11 3年次の研究構想】

（仮）Enjoy! 算数+α

#論理的に考え、伝える力の育成 #自己調整力 #（まとめの校内研で決定）

- ・ 算数科の授業を中心に研究を進めていく。授業を通して、その時間の目標を達成すること、その達成目標の過程の中で、自己調整が働くようなしかけを意図的に作っていくことを大切にすること。
- ・ 引き続き「課題との出会い」と「振り返り」を大切にしたい授業づくり（授業改善）を充実させていく。
- ・ データを活用する視点を明確に教員で共有し、「もっとデータを活用しよう」「データを活用することが授業づくりに有益だ」と思えるデータ活用の手法について研究する。そして、データを分析する機会を定期的に設定し、分析したことをもとに授業改善を行う。
- ・ 振り返りから児童自らが学びを調整できたかを見取るため、教科学習や行事等の中で、論理的に思考し、それを表現する力を身に付けさせていく。
- ・ 論理的に考える力や表現する力を高めるため、常に児童の言葉で表現させることにこだわる授業、児童の前のめりな姿を引き出す授業づくりを目指す。
- ・ 児童がメタ認知を働かせ、自分の学びを振り返ることができる振り返りの書かせ方や次の学びへとつながる具体的な支援について研究を進める。
- ・ 来年度のブロック研究会についても、年3回のブロック研究会を「学力向上に」に焦点を当て、非認知能力「自己調整」を切り口とした研究を行っていく。また、学びのパスポートを活用推進するための「プロジェクトチーム」の活動も継続していく。綾中ブロックの研究内容についても全体場で共有し、自校の研究に生かしていく。